

「医療チームの一員として MR の使命を考える」

荒木 修（日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 ドナウライン神奈川静岡支社）

「すぐに来て頂けますか？」

2011 年 8 月 15 日（月）午前 8 時 00 分。私の携帯電話にご連絡を頂いたのは E 病院の薬局長。わが社の主力製品であるプロダクト A のブルーレーター※（同年 8 月 12 日）発令で情報提供を求められたのである。

自社医薬品で亡くなった方がいるという責任とこれから受ける数多くの質問を予想すると平常心ではなかったと思う。慌てて会社に寄って用意できる全ての資料を持って、薬局長を訪問したのは電話が鳴って 1 時間も経っていなかった。

「緊急事態だと感じ迅速な情報が欲しかった。厚労省から発令されたのはイエローではなくブルーレーターで間違いはないのですね？死亡された患者さんの詳細についてお伺いしたいのですが」

「はい、死亡した患者さんには禁忌症例が含まれておりまして・・・」

その後も担当先全てのドクター、薬剤師の先生方を訪問した事は言うまでもない。正確な情報提供は迅速さとの確さを備える事が必要であると再認識した時である。

MR テキストに医薬情報担当者とは医薬品の情報提供、収集、伝達を使命として実施する者と記載されているが今回のプロダクト A は日頃からその使命を実施出来ているか考えるきっかけにもなった。MR はドクターや薬剤師の先生と面談する時は各症例ベースの情報提供を意識しご意見を傾聴し受け止め質問すると言う基本的なサイクルを高いレベルで実施する必要があると実感した。

現在の担当先である N 先生がご講演で言われた内容が印象的である「今回プロダクト A で我々ドクターは学んだ、忙しさのあまり MR の情報提供を疎かにしていたが、それではいけない」と。

では我々 MR はどれ程、迅速に的確な情報提供を行って、必要な情報を欲している先生方にそれぞれ合った情報を伝える事が出来て、さらには質問を受ける準備は出来ているだろうか。ドクターに聞く耳を持たせなくなったのは我々 MR であるかもしれない。その原因として考えられる事は今までは「販売」としての意識も強かったからであろう。

売り上げを伸ばすために製品名を連呼する、一方通行な会話ばかりで患者さんの顔が見えていない。副作用が発現した患者さんを実際見る事が無い MR は医療現場をどれ程想像できているか。

自問自答が繰り返される中、たまたま先日行われた MR シンポジウム日本病院薬剤師会、関東学術大会に参加した時であった。ある先生が「今は MR の変遷期である」とおっしゃった、過去の propagandist（プロパー）とは状況が違うのだ。透明性ガイドラインの施行と多様化している専門性の高い薬剤。一昔前に要求される情報提供とは明らかに変わって来ているのだ。質の高い情報が求められる中で一体、我々の使命とは何であろうか。

意外にもその答えは身近な所に存在していた。ある薬剤師の先生に「MR の群像」という本を

薦められ購読した時である。多くの先生方がMRのあるべき姿について言及されている。記載されているMRの先輩方に共通している事は、情報力、人間力、情熱といった項目を高い基準で持ち合わせ、医療関係者の一員となって患者さんに対し医療を実施していると言っても過言ではない内容であった。

私達MRは医療関係者であると実感させられた。

つまりMRは「医療チーム」の一員なのである。ドクターや薬剤師の先生方の先に見える患者さんに対し情報という目に見えない治療に携わっていると言える。

MRの使命を感じ取った。間接的ではあるが症例ベースで各患者さんについてドクターや薬剤師の先生方と共に考え自社医薬品が患者治療の選択肢の一つであり、その為に添付文書や最新の情報について全ての医療関係者が理解していただく様に活動する事が適正使用の推進でありMRのあるべき姿であると確信した。我々は直接見る事が無い患者さんを助けているという誇りと使命に真剣に向き合う事が重要であるのだろう、それには日々、絶え間ない努力と理想のあるべき姿を意識したMR活動が必要であり、その積み重ねの結果、十人十色の先生方のニーズから選ばれるのではないか。その責任ある行動を続ける事がこれからの医療チームの一員として認められるMRだと思う、言い換えれば自分の成長や活躍が出来る大きな舞台に今、立っているのだと喜びを感じる。

最後に私の考えるMRとしての信念を記載したい。

「我々MRは医療に関係する全ての人から信頼される医療パートナーとして認められ、患者さんを最優先と考え、医療チームの一員としての立場で正確さと迅速さと的確な情報を医療関係者に伝え、礼儀正しく誠実さを持って謙虚に活動を行い全ての人の声に傾聴すると共に常に自身への努力を怠ってはいけない。」

この度の自分を見つめ直す機会となったMR100周年懸賞論文という企画に感謝申し上げます。

※イエローレター（緊急安全性情報）は、緊急に安全対策上の措置（使用制限等）をとる必要がある場合に医療機関等に発信されるもので、ブルーレター（安全性速報）は、イエローレターに準じ、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な安全対策措置をとる場合に発信されるものである。